

木曾の伝統野菜赤かぶについて学ぶ会を開催しました

開催日 7月19日(火)

場所 木曾合同庁舎 講堂

内容

木曾管内には信州の伝統野菜として登録されている赤かぶが6品種(木曾町:開田蕪・三岳黒瀬蕪、上松町:吉野蕪・芦島かぶ、木祖村:細島蕪、王滝村:王滝蕪)あり、これらを効果的に活用できる多様な視点を学ぶため、信州大学農学部 根本先生をお招きして、研修会を開催しました。

根本先生から、全国的にも地域のなかに6種もの蕪が伝統野菜として残っていることは稀で、地域資源として利活用が大いに期待できるとのお話をいただいた一方で、気象変動や生産者の高齢化などにより、課題も山積みとなっていることも指摘いただいた。

生産者からも現状や課題などの意見が活発に出され、生産者・研究機関・行政が連携をとることの重要性を改めて共有し、赤かぶの保全や利活用を地域一体となって考えていく良い機会となった。

